

里山・広葉樹林再生プロジェクト第7回推進連絡会議概要

1 開催日時及び場所

日時：令和6年12月10日（火）10:50～16:15

場所：（現地調査）福島県伊達市霊山町大石地内 広葉樹林再生事業地
南東北木材株式会社（木材市場）

（推進連絡会議）福島県庁西庁舎3階 西313会議室

2 出席委員

委員名簿のとおり

3 会議の概要

福島県、林野庁より議事の説明を行ったのちに意見交換。主な発言は以下のとおり。

（福島県）

- ・ 再生プランについては、新たに鏡石町、棚倉町、新地町が策定し、令和6年12月末時点で23市町村において策定済である。森林組合が実施主体の須賀川市を含め、現在24市町村で取組を行っているところ。令和6年度においては、合計で280haの原木林で伐採・更新を実施する計画である。
- ・ 令和3年度から令和5年度末までの伐採・更新の実績は461haとなっている。
- ・ 福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合（以下、「郡山木工団地」）と共同で、田村市都路地区の小径のコナラを用いて集成フリー板を試作した。歩留りは15%程度だったが、強度については市販品と同等程度の強度を有していることを確認した。また、試作品の表面線量についても市販品と同程度であることを確認した。今年度は、昨年度に二本松市で伐採したコナラを用いて試作予定。あわせて、小売業者にヒアリング等を行い、採算性についても検討を行う予定。

（林野庁）

- ・ 広葉樹材の活用事例として、越井木材工業株式会社が大阪万博の民間パビリオンにおいて、福島県田村市産のコナラを用いてフェンスとして使用予定。民間企業は、会場で本プロジェクトによる復興支援の一環の取組であることをPR予定。
- ・ 第6回推進連絡会議で課題となった用材向けとなるコナラの目合わせを素材生産者、製材・加工関係者、利用者、行政が参加して採材検討会として令和5年11月に実施したところ。本日の広葉樹の市況調査において、広葉樹の引き合いが今後強まる傾向にあることを踏まえ、用材の中でも市場向けと集成材向けにきめ細かく選別する目合わせがさらに必要と考えており、今後の対応を要検討。
- ・ 製材・加工で多く発生する端材の活用として、郡山木工団地が、ウイスキーに入れると香りや味がマイルドに変化するフレーバースティックの試作を行った。所有者への還元を最大化するための有効な取組のひとつと考えている。

（以上）

「里山・広葉樹林再生プロジェクト」第7回推進連絡会議委員名簿

氏名	現職
ひらの なおみ 平野 尚巳	福島県農林水産部次長（森林林業担当）
たんじ としひろ 丹治 俊宏	福島県森林組合連合会代表理事専務
まえだ ひろし 前田 洋	福島県木材協同組合連合会専務理事
あたか しほ 安高 志穂	林野庁森林整備部研究指導課長
たけうち まなぶ 竹内 学	林野庁林政部経営課特用林産対策室長

（敬称略）

【オブザーバー】

氏名	現職
しのみや よしき 篠宮 佳樹	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 戦略研究部門 震災復興・放射性物質研究拠点長
みうら さとる 三浦 寛	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 戦略研究部門 震災復興・放射性物質研究拠点 研究専門員

（敬称略）